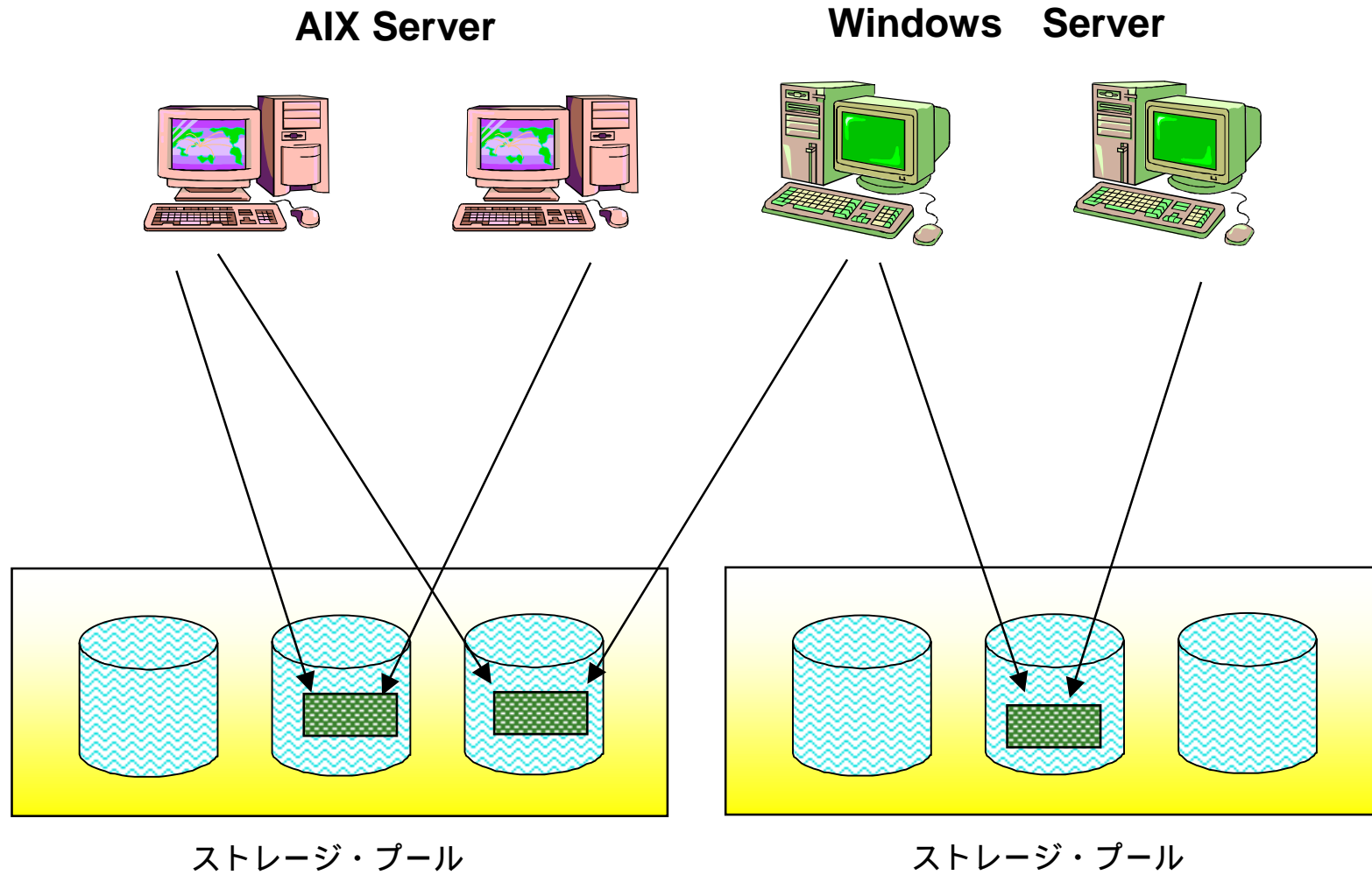
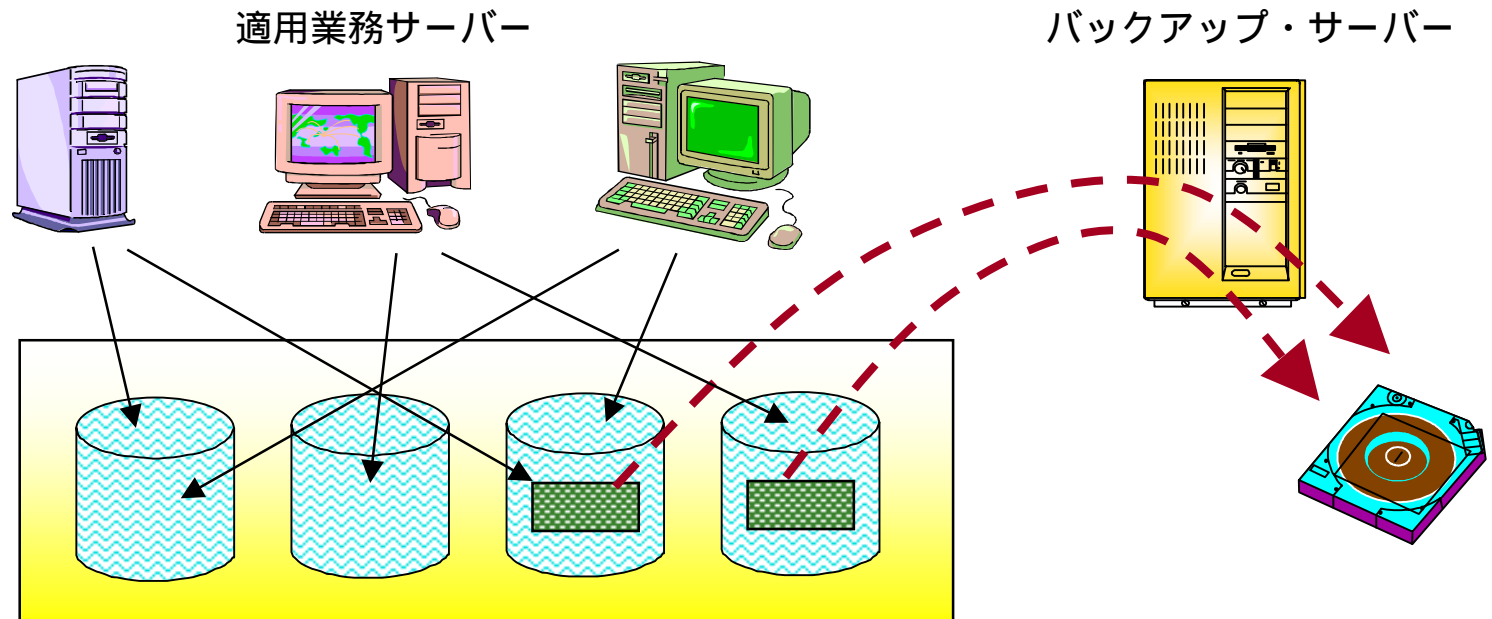


# ファイルの共用



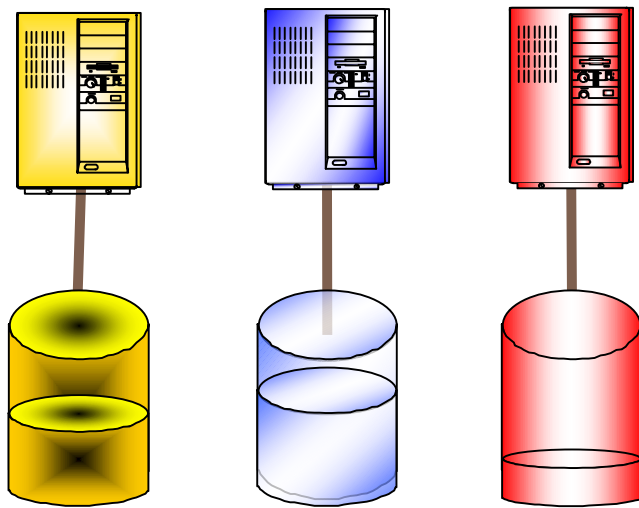
# バックアップ・システムでの活用



- 適用業務サーバーを稼働させながら、バックアップの取得が可能
- バックアップ・サーバーの集中化が容易
  - 直接バックアップ・システムからSAN経由で対象データを参照可能

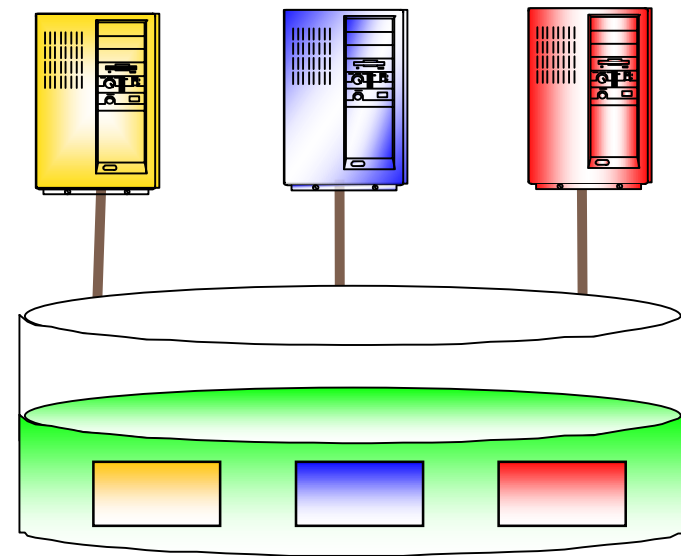
# システム間での空きスペースの共用

SFS以前のシステム



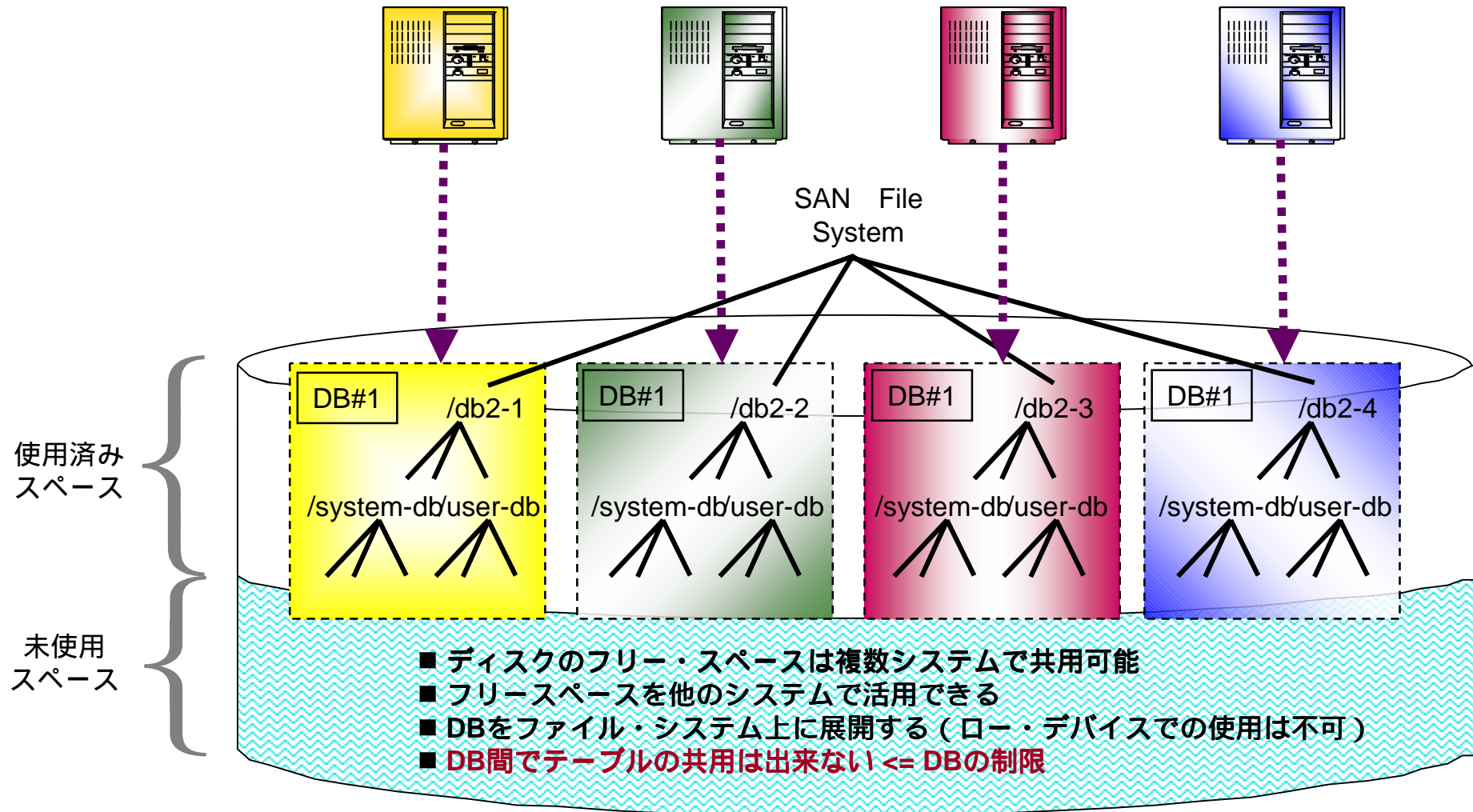
- ディスクのフリースペースは各ディスク単位
- フリースペースを他のシステムで活用できない

SFS以後のシステム

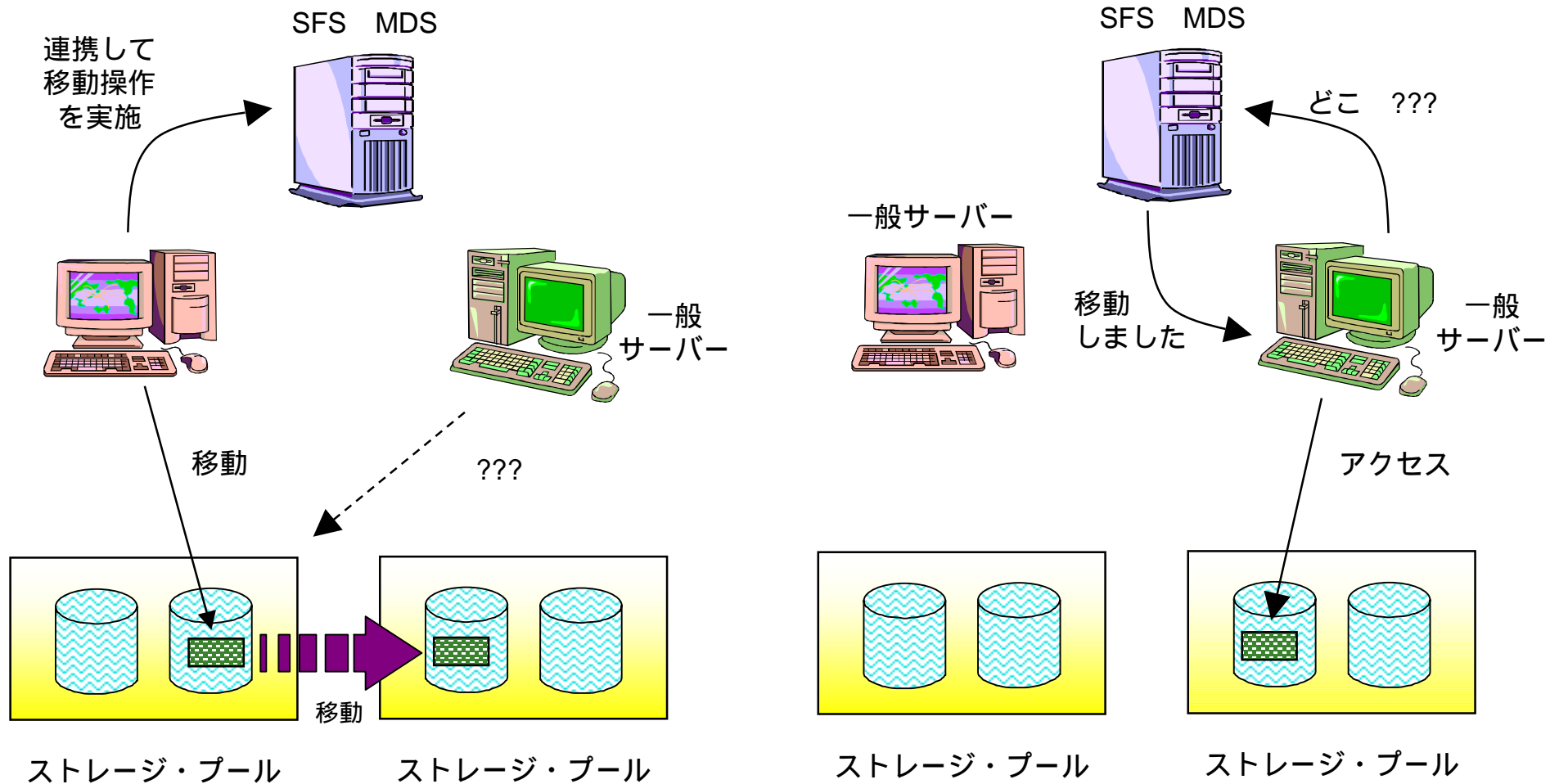


- ディスクのフリースペースはシステム全体で共用
- フリースペースを他のシステムで活用できる

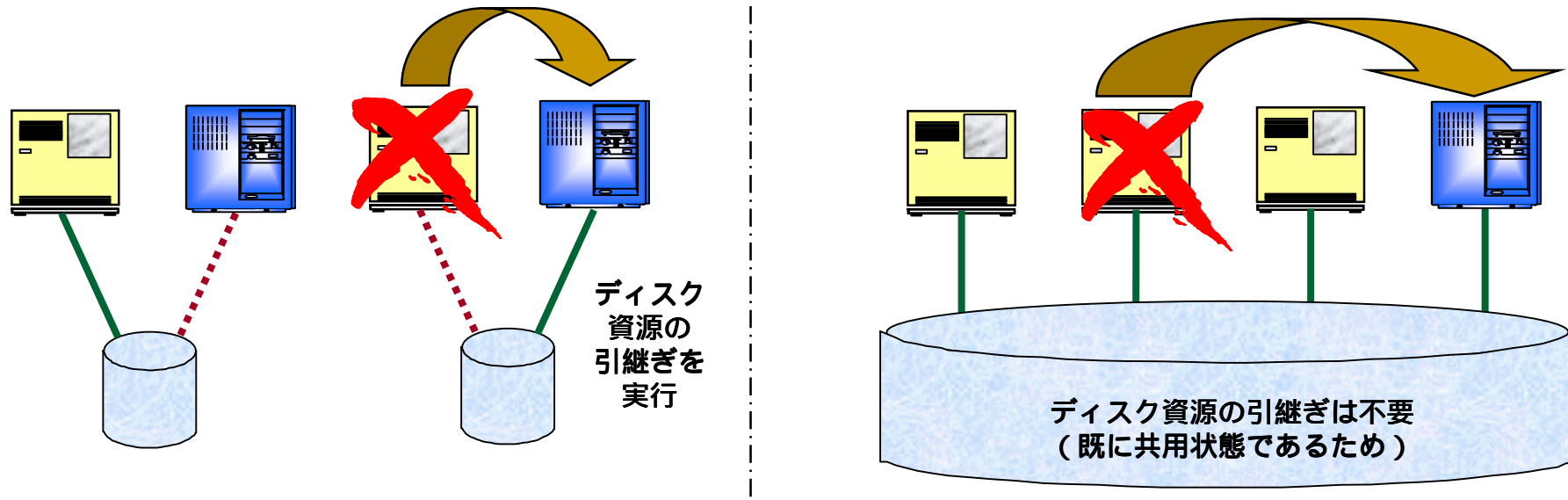
# フリー・スペースの共有: データベース・システムでの応用



# ファイルのメタ・データの集中管理

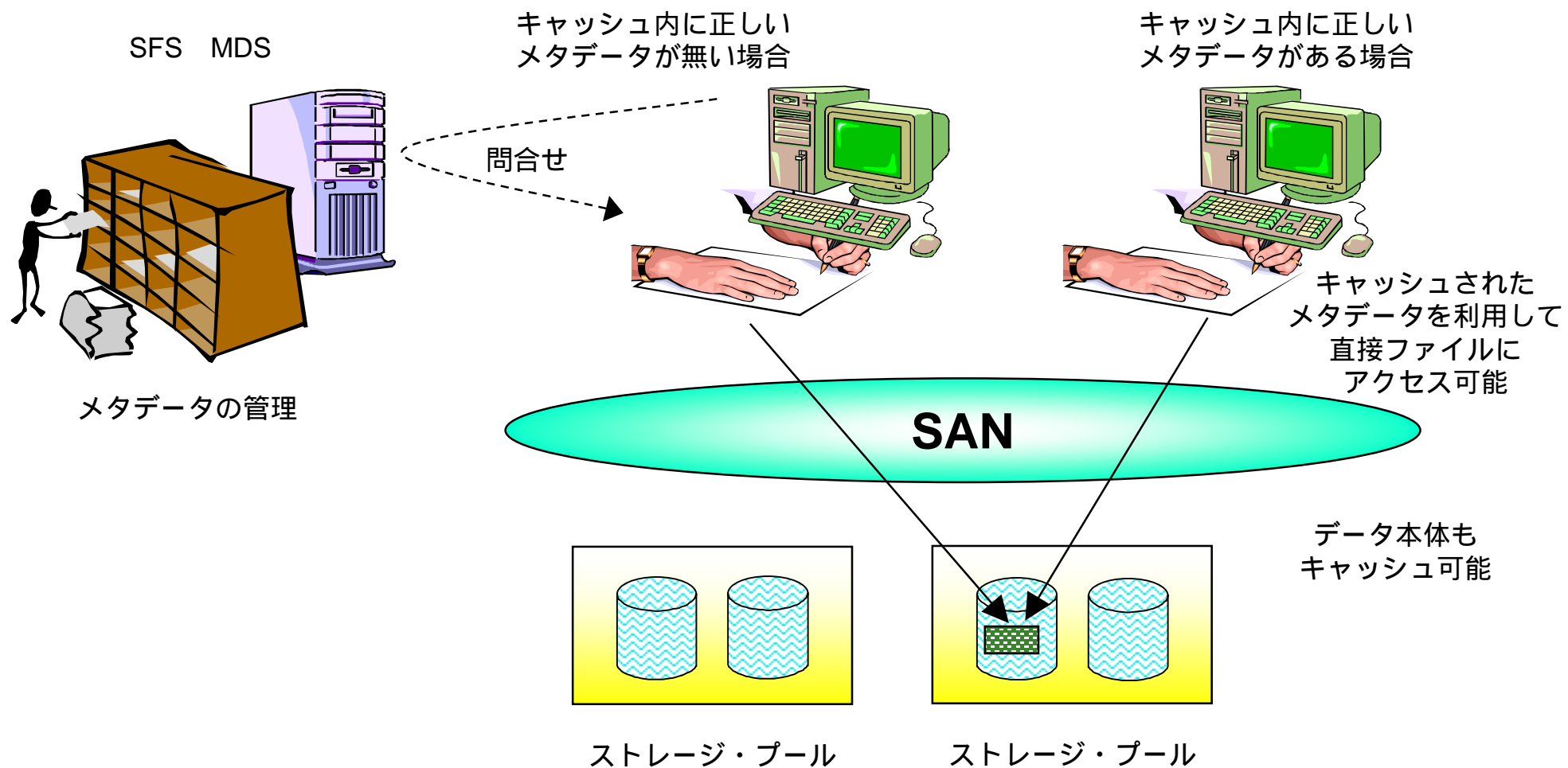


# クラスタリング・システムにおける活用

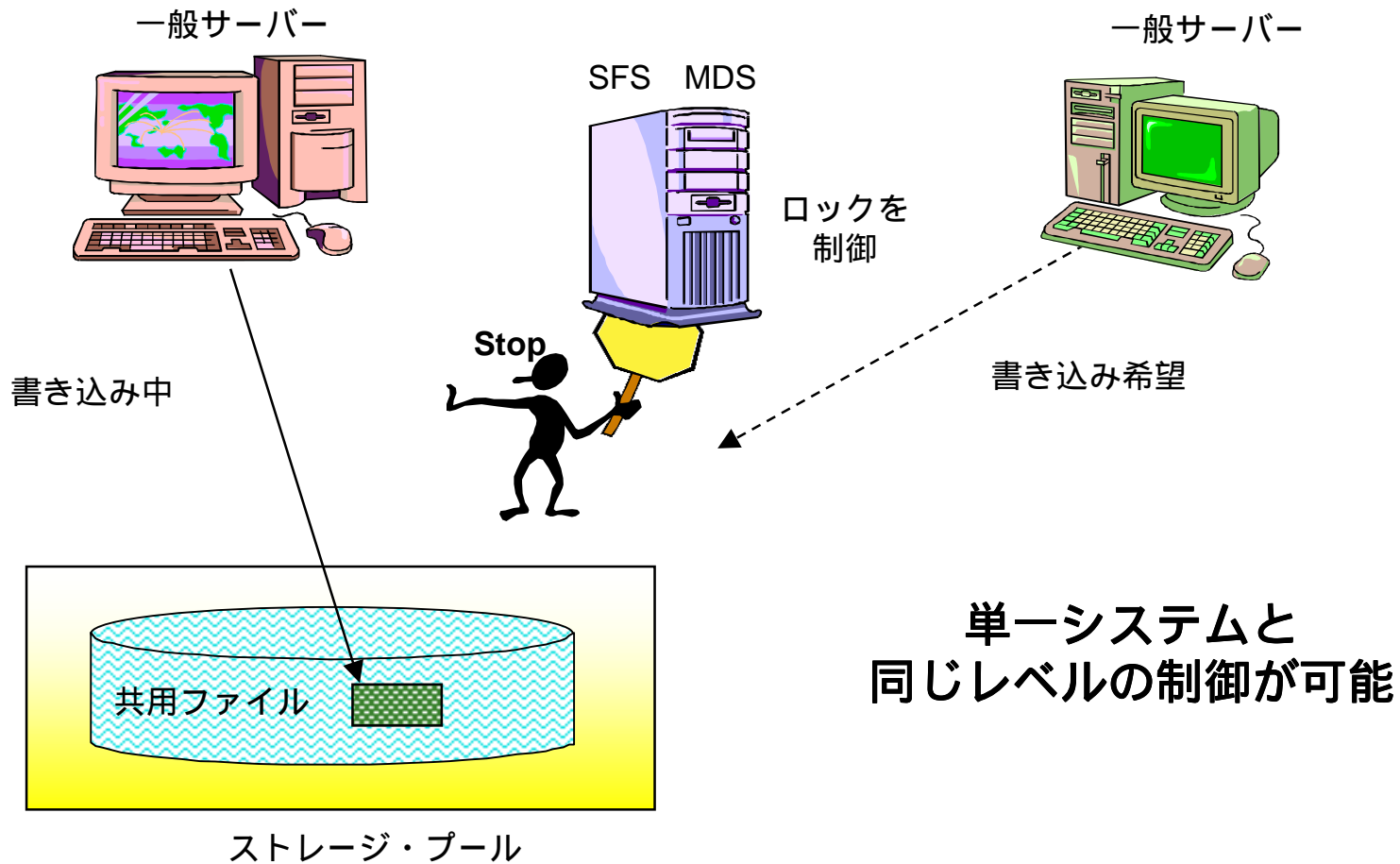


- 従来の高可用性クラスタリング・システムでは、テイク・オーバーに時間がかかっていた
  - ファイル・システムの整合性を確認するためにfsckなどの操作が必要
  - 大きなファイル・システムであればあるほど、テイク・オーバーの時間は長くなる
    - 場合によっては数十分～数時間
- SFSではファイル・システムを共有しているため、ディスク資源を引き継ぐ必要はない
  - 共有機能の恩恵により、既に利用可能となっているため
  - 高速なテイク・オーバーが可能
- テイク・オーバー用システムを少なくする事も可能
  - 1対1のクラスタリングではなく、多対1のクラスタリング構成の検討も可能

# キャッシングの実施

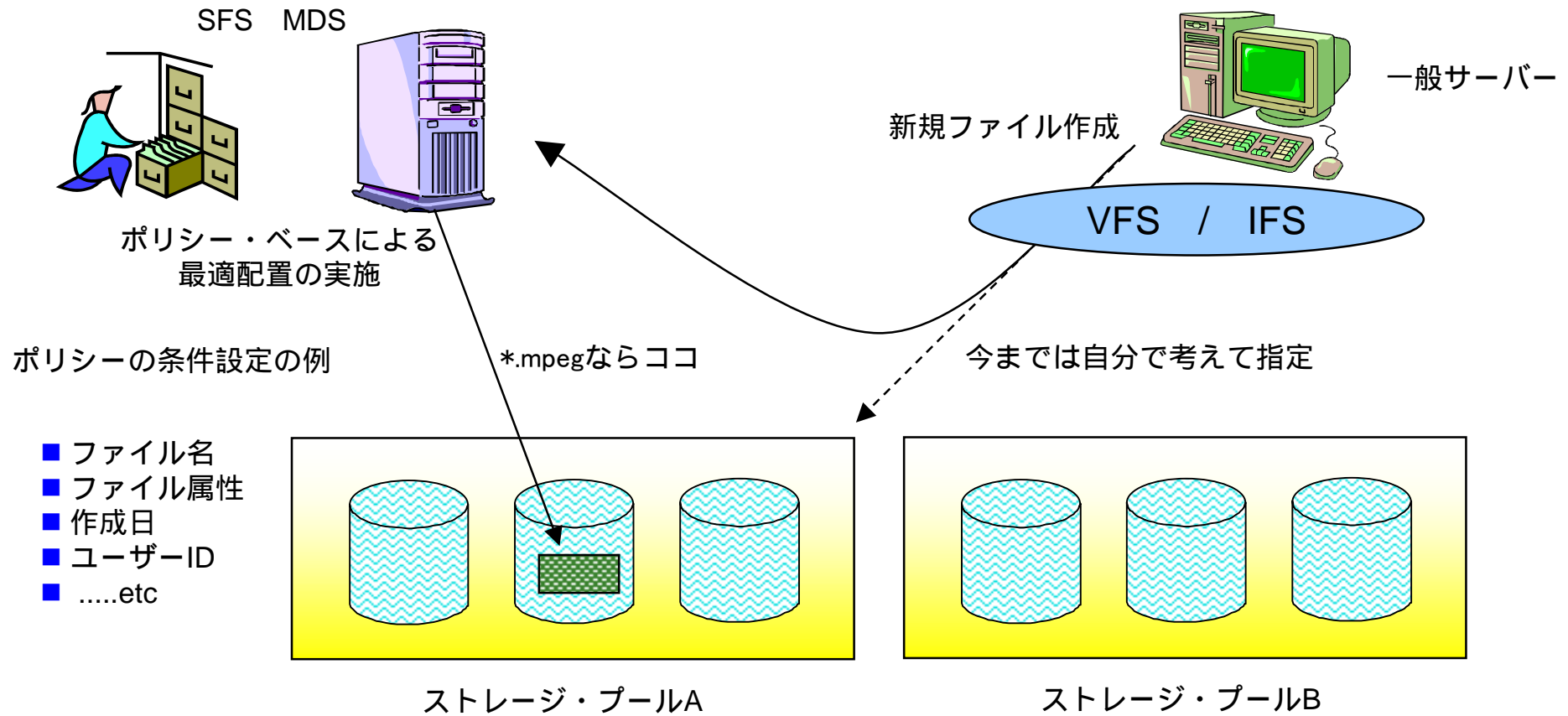


# ロックの制御



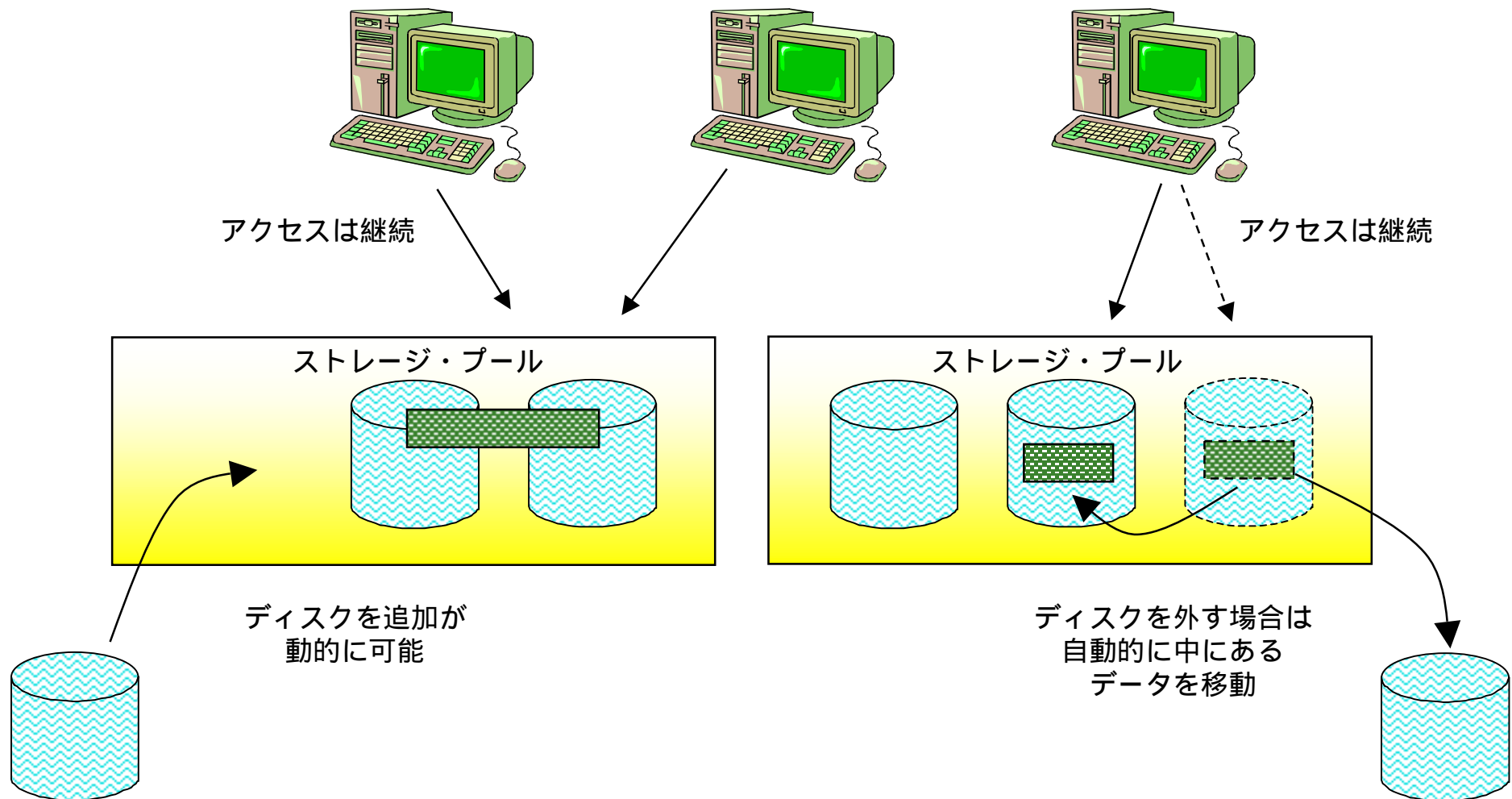


# ポリシー・ベースのファイル・アロケーションの制御

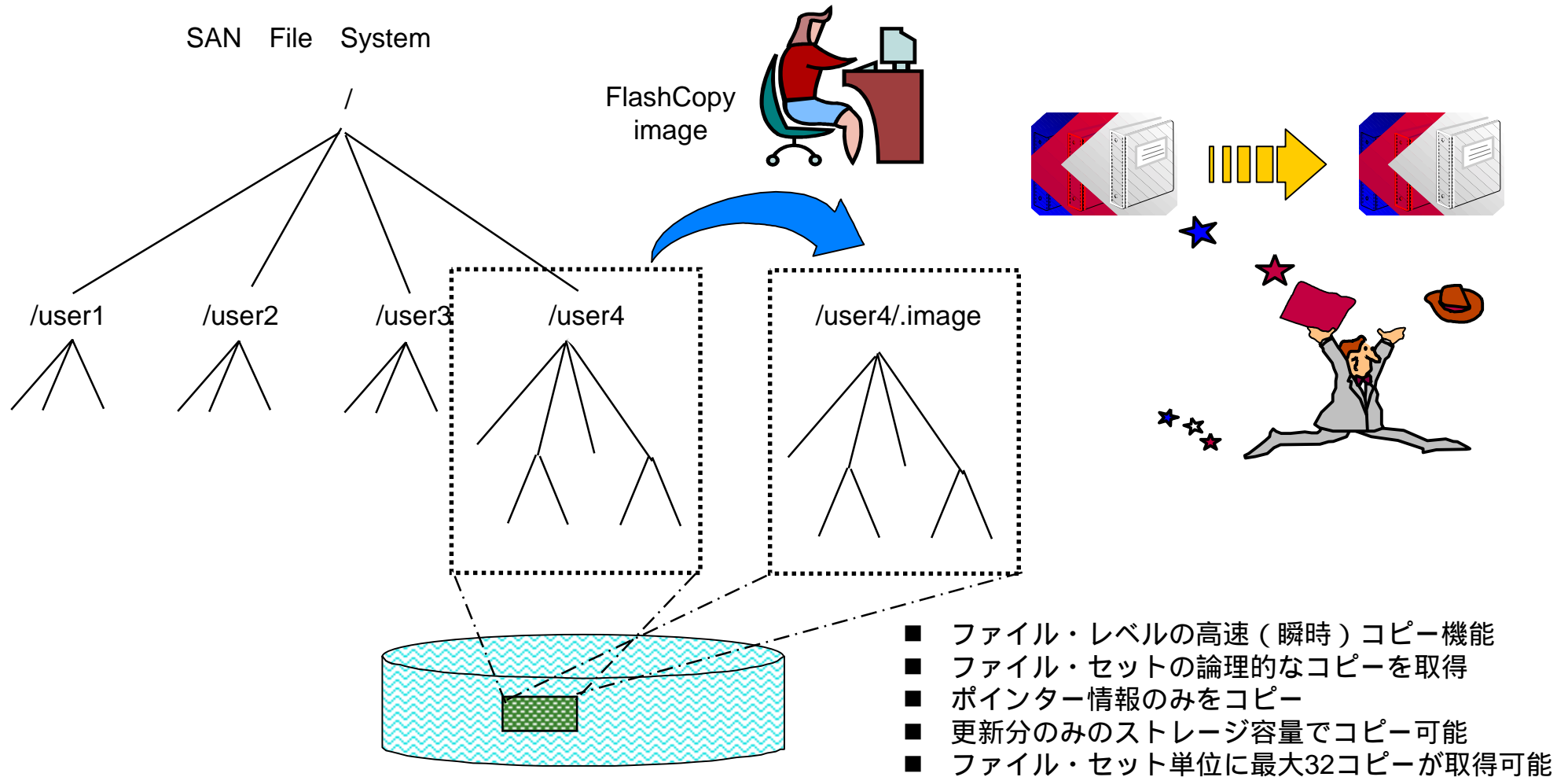


事前に設定されたポリシーに基づき、最適な場所へファイルを配置

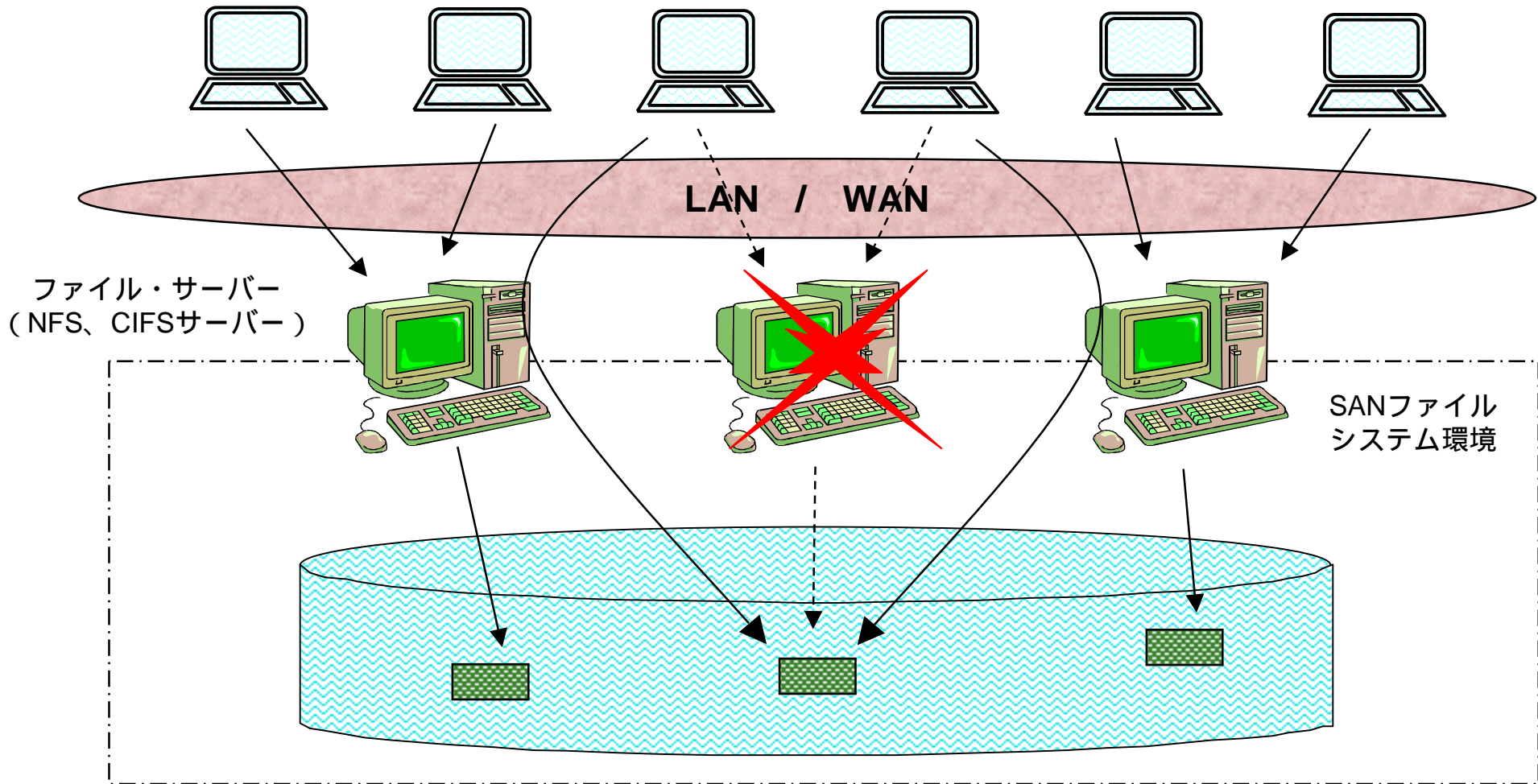
# ボリュームの動的追加と削除



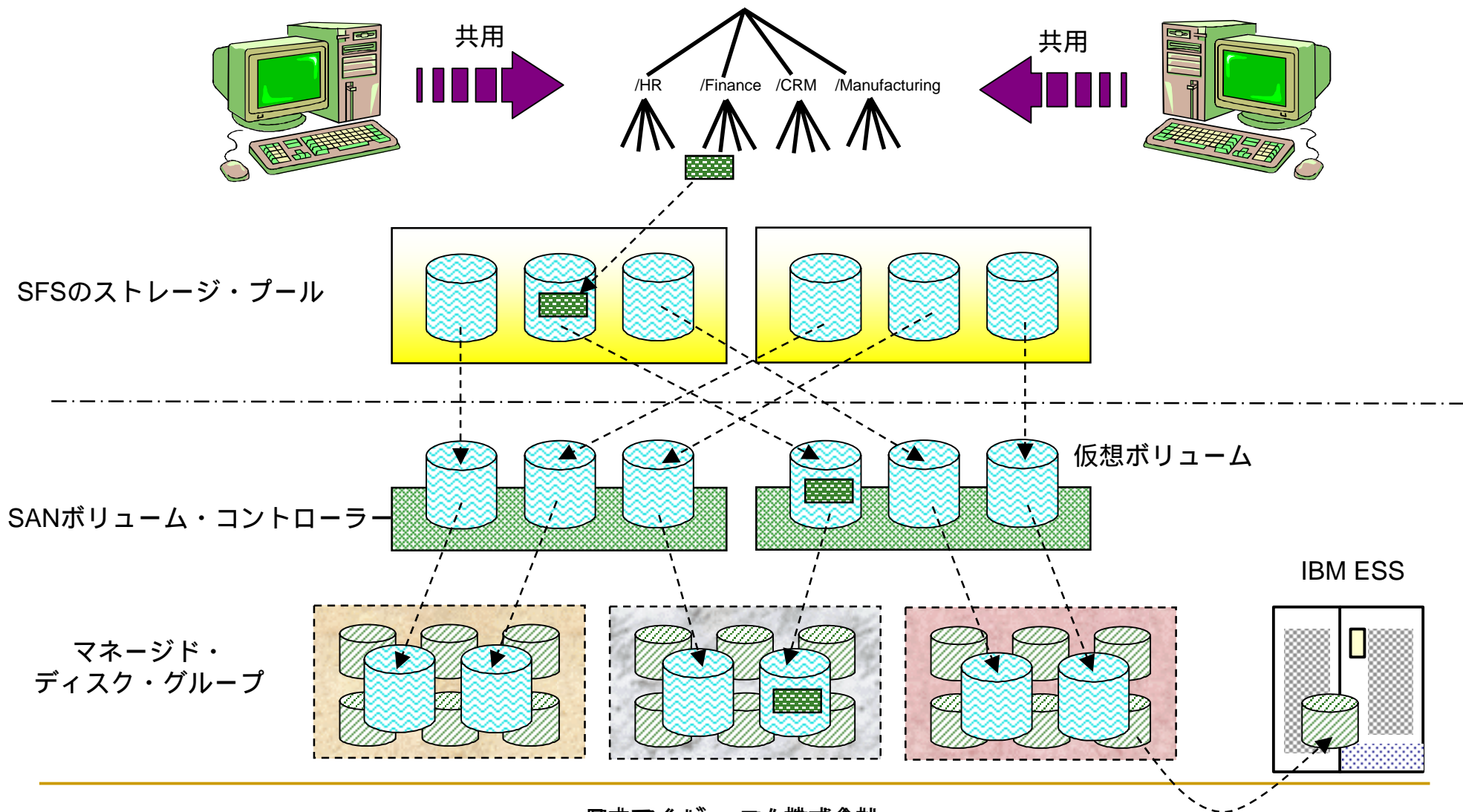
# FlashCopyイメージ



# ファイル・サーバーとの連携による利用



# SVCとSFSを併用した場合のボリュームの関係



田本アイ・ビー・エム株式会社

# SFSで実現される世界 : まとめ

## ■ 共通ファイル・システムを提供

- システム間でのディスク使用効率のバラツキを解消
- プラットホームにとらわれないグローバル・ファイル・システムの提供
- 異なるプラットホーム間でデータの共用が可能

## ■ ストレージ使用効率の向上

- 従来システム毎に分割されたディスクの空きスペースを有効に利用可能
- 企業全体でストレージ資源の平準化が可能

## ■ 仮想ファイル・システムによるワークロードの削減

- 適用業務に影響なく、ディスクの追加、削減が可能
- フラッシュコピー・イメージで高速なバックアップイメージを取得可能
- ポリシーに基づいたストレージの最適な配置を実施
- システムやアプリケーションに対し、使用可能な物理容量以上の容量をセットして割り振ることも可能

## ■ TCOの削減

- データ配置先を自動的に制御
- クラスタリングに対する負荷を軽減
- スペース管理作業の軽減
- データ・リプリケーション作業の軽減